



遷 画
シルクロード

自由に画像を並べ替え、
文化の変遷を見つけよう。

2011年10月20日、東洋文庫ミュージアムに登場。



国立情報学研究所
デジタル・シルクロード・プロジェクト

NATIONAL INSTITUTE OF INFORMATICS

Digital Silk Road Project

<http://dsr.nii.ac.jp/>

◎「遷画(せんが)～シルクロード」とは

国立情報学研究所「デジタル・シルクロード」プロジェクトは、シルクロードの文化遺産に関する資料などのデジタル化、デジタルアーカイブの構築とウェブサイト上での公開などに関する研究を、情報学と人文学の研究者が協力しながら進めています。

「遷画～シルクロード」は、デジタル化したシルクロードの専門書を一般の方々にも気軽に活用してほしい、という考えのもとにデザインしたシステムです。シルクロード各地の文化遺産—遺跡や寺院の仏像・壁画など—を記録した数千枚の画像からお気に入りの画像を選んで並べ替え、個人の自由な発想のもとに仮想的な展示を制作することができます。

東西交易路としてのシルクロードを、文化が変遷や融合を重ねつつ伝播していく様子を楽しみながら、あなた独自のシルクロードを見つけてみてください。



◎「遷画～シルクロード」とワークショップ

「遷画～シルクロード」は、デジタル・シルクロードのアウトリーチ活動の一環として、主に子どもたちを対象としたワークショップにて活用してきました。そして多くの子どもたちが、初めて見るシルクロードの文化遺産に親しみながら、仮想的な展示の制作（キュレーション）にチャレンジしてきました。

展示の制作にあたっては、他者が過去に制作した展示から学びつつ、そこに自分の創造性を加えていくことが重要になります。文化遺産を自分なりに解釈するという体験を通して、個人ごとに視点や解釈が異なることや、ストーリーを考えると展示が面白くなることなどへの気づきが得られました。

◎「遷画～シルクロード」と東洋文庫ミュージアム

ミュージアムはこれまで作品鑑賞の場として発展してきましたが、近年はワークショップのように、人々が能動的に参加する双向的な体験の場としての価値が高まりつつあります。そこで国立情報学研究所は東洋文庫ミュージアムと協働して、ミュージアム所蔵品を組み合わせて制作した仮想的な展示を、オリジナル絵はがきとして印刷できるシステムを構築しました。

ミュージアムと人々との関係は、館内で制作した絵はがきをミュージアムショップから持ち帰るという一過性の関係にとどまらず、ウェブ上に展示して友人たちと共有するという「開かれたミュージアム」へと広がっていきます。所蔵品と能動的に関わることのできる場を築くことで、人々がミュージアムを身近に感じるきっかけを生み出せればと考えています。



「遷画」とは、デジタルアーカイブの一つの表現方法として、デジタル・シルクロードが提案している造語です。「遷画」は、複数の画像を自動的に次々に切り替えていくことで変遷や多様性を見せることができる、つまり「遷」りゆく「画」という、インターフェースの動的な側面を表しています。同時に「遷画」は、「千画」という音を重ねることで、多数の画像（千画）を一覧し、整理して、公開することができるという、インターフェースの対話的な側面も表しています。

「遷画～シルクロード」ウェブサイト

■ <http://dsr.nii.ac.jp/senga/>